

社会福祉法人
秀幸福社会

2022 ・ No.271

9 月



特別養護老人ホーム庄栄エルダーセンター

〒567-0806 大阪府茨木市庄2丁目7-38
TEL 072-631-5151 FAX 072-631-5141

高槻エルダーセンター

〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町2丁目4-32
TEL 072-690-5151 FAX 072-690-5141

地域密着型デイサービスセンター 未来

〒567-0823 大阪府茨木市寺田町8-20
ピアハイツ幸1階
TEL 072-635-8484 FAX 072-635-8451

三島・庄栄地域包括支援センター

〒567-0023 大阪府茨木市西河原2丁目17-4
TEL 072-631-5566 FAX 072-631-5555

太田・西河原地域包括支援センター

〒567-0018 大阪府茨木市太田1丁目17-20
TEL 072-631-5200 FAX 072-631-5222

東・白川地域包括支援センター

〒567-0806 大阪府茨木市鮎川1丁目6-4
TEL 072-636-8686 FAX 072-636-8687

いきいきネット相談支援センターエルダー

〒567-0806 大阪府茨木市庄2丁目7-38
CSW 専用携帯 080-8946-3999
FAX 072-631-5141

茨木市福井多世代交流センター

〒567-0062 大阪府茨木市東福井2丁目23-22
TEL 072-643-1300 FAX 072-643-1300

**大阪府指定住宅確保要配慮者居住支援法人
社会福祉法人 秀幸福社会**

〒567-0806 大阪府茨木市庄2丁目7-35
TEL 072-631-5151 FAX 072-631-5141

相談支援センター ひまわり(茨木市指定事業所)

〒567-0806 大阪府茨木市庄2丁目7-38
TEL 072-626-3310 FAX 072-626-3340

相談支援センター ひまわり(茨木市委託)

〒567-0806 大阪府茨木市西河原2丁目17-4
TEL 072-631-5588

放課後等デイサービス ひまわり

〒567-0806 大阪府茨木市庄1丁目13-27
TEL 072-623-5511 FAX 072-623-5550

放課後等デイサービス フォルテひまわり

〒567-0806 大阪府茨木市庄1丁目7-27
ピアフォルテ102・103
TEL 072-622-6081 FAX 072-622-6082

茨木市地域活動支援センターⅢ型 ひまわりの杜

〒567-0022 大阪府茨木市三島町1-10
TEL 072-625-8070 FAX 072-625-8071

就労継続支援B型 ファーム大岩の杜

〒567-0022 大阪府茨木市三島町1-10
TEL 072-625-8070 FAX 072-625-8071

認定こども園 ちとせ學院

〒567-0806 大阪府茨木市庄2丁目7-35
TEL 072-626-2191 FAX 072-626-2192

認定こども園 ちとせ學院 めぐみの森

〒567-0814 大阪府茨木市戸伏町13-35
TEL 072-626-1606 FAX 072-626-3164

認定こども園 ちとせ學院 Due 南茨木

〒567-0868 大阪府茨木市沢良直西1丁目10-31
TEL 072-638-9191 FAX 072-638-9192

●法人理念●

社会福祉法人 秀幸福社会は多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が尊厳を保持しつつ心身ともに健やかに育成され、又その有する能力に応じた自立した日常生活を地域社会において営む事が出来るよう支援することを目的としています。

●運営目標●

- I 心が美しい人間になろう。
- II ひとり一人がみんなの命のぬくもりを大切にしよう。
- III やる気、本気で精一杯力を出し合おう。

●施設運営方針●

I 施設の使命

老人福祉施設庄栄エルダーセンターは、地域社会の支持を受け、開かれた施設として高齢者が地域社会の中で安心して生活を送ることができる、拠点施設となる事を使命とします。

II 利用者の生活の質の向上

老人福祉施設は尊厳を持って、利用者の個別ニーズに対応した自己決定を基盤とする自立支援をすると共に、優しさあふれた明るい施設作りを目指します。

III 職員の質の向上と専門性の向上

老人福祉施設の職員は常に質の高いサービスができるよう外部、内部研修に力を入れ円滑な人間関係の下『知識』『知恵』のあるケースを提供することを目的とします。

IV 地域福祉の向上

庄栄エルダーセンターは交通の利便性、人口密集地区にある施設として、施設、家族、地域の『きずな』を重視し、福祉サービスの発信基地、ボランティア活動の拠点となり、保健、医療機関との連携を密にして、地域の福祉の向上に努めます。



三島・庄栄地域包括支援センターです！



令和3年4月に、東保健福祉センター内に開設されました。茨木市保健師、茨木市社会福祉協議会、生活支援コーディネーター、障害相談支援事業所、CSWの専門職が連携し、身近な場所で世代や分野を問わない保健と福祉に関するあらゆる相談を受けて、解決に向けて日々努力しています。

ある日の地域ケア会議の様子です。

高齢者の自立を目指して、多職種で話し合う会議です。



感染予防を心がけ、少人数での会議を意識しておこないました。

茨木市3師会、ケアマネジャー介護保険サービス事業所等に参加していただきました。

三島・庄栄地域包括
支援センター職員



伊藤



坂井



船戸



藤井

浪速少年院より感謝状をいただきました！！

7月25日に浪速少年院より感謝状をいただきました。
当施設が平成26年より院生に対して、更生保護の一環で継続的に行ってきた就労支援講座。その活動に対して贈られたものです。
当法人は、これからも社会福祉法人の使命として、この就労支援講座や刑余者の職員採用などを積極的に行ってまいります。
皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



トピック

当法人から下記の大会に2名が実践報告で登壇！
第41回全国社会福祉法人経営者協議会 青森県大会
テーマ：『新たな社会課題への挑戦！～ふるさとを支える社会福祉法人～』

9月15日に開催される表記大会に当法人から、障害者地域活動支援B型事業所ひまわりの杜より瀧本管理者といきいきネット相談支援センターエルダーのCSW 神野が参加します。
瀧本管理者は、障害者の働く場として取り組んでいる「農福連携」について。CSW 神野は、「高齢化が進み、なおかつ自治会が解散した総持寺団地の活性化」について実践報告します。*詳しくは、10月号にて報告します。





～ アートで考える 高齢化社会と老い ～

ドイツ・デュッセルドルフからプロジェクト「PLUS」が
庄栄エルダーデイサービスにやってきました！



ドイツから来日した上記プロジェクトチームは、アートを通して「高齢化社会」や「老いること」を考え、日本での交換プログラムを行うというものです。

7月28日と8月3日の両日、庄栄エルダーデイサービスにて利用者様に対して、普段見ることのできないパフォーマンスを披露していただきました。

アーティストパフォーマーによるダンスや書道家によるパフォーマンスなど…。利用者様全員が食い入るようにご覧になり、驚きあり笑いありの楽しいひと時を過ごしていただきました。

今回、ご紹介をいただいた公益財団法人茨木市文化振興財団 田中様のコメントをご紹介します。

『高齢化社会をテーマにしたアートプロジェクトでドイツから茨木市に訪れたアーティストとの交流プログラムとして、7月28日と8月3日に、デイサービスの皆さまを対象に書とパフォーマンスのワークショップを実施させていただきました。

自分の名前を布に筆で書き、名前を声に出し、名前をイメージしてダンスのように身体を動かす取組でしたが、椅子から立ち上がり踊りはじめる方の楽しそうな姿が印象的でした。

中尾理事長や今井係長をはじめとする職員の皆さまのプロジェクトへの多大なるご支援に、ドイツから来たメンバーも感動していました。心から御礼申し上げます。』





書道家パフォーマーから直々に伝授！

パフォーマーが利用者様にお声がけ・・・
「何ごとや・・・」と利用者様もビックリ・・・



みなさん、真剣そのもの・・・。



デイスタッフ高〇氏・・・
名前の「雅」を芸術的に
身体に書いていただきました。
字はすばらしい・・・。
お腹は、ちょっと・・・
(笑)



でんでん太鼓に合わせてダンスパフォーマンス！
利用者様も自然に身体が動いていました！



パフォーマーのみなさんで～す！
元気をありがとう

利用者様の声・・・

- ・わざわざ世間が大変な中、ドイツから来てくれてありがたい！楽しかったよ！！
- ・最初は何が始まったのかわからへんかったけど、見てて元気になった！
- ・スタッフの体に書かれている時が一番笑った！おもしろかった！！
- ・デイサービス全体が盛り上がり、みんなで楽しめました。またやってほしい。

スタッフの感想・・・

- ・利用者様が字をご自身で書かれたり、特に普段、書かれない方もご自身の名前を大事にしているところが大変良かったです。

注意してください！ 台風の時期がやってきます！！
怖いのは「台風」だけじゃない！

知っておきたい「線状降水帯」

最近、天気予報やニュースで「線状降水帯」という言葉を頻繁に聞くようになりましたよね。2014年の広島豪雨の際にこの言葉が注目され、2017年の九州豪雨や2018年の西日本豪雨災害で、さらに一般社会へ広がりました。どうして「線状降水帯」という言葉を最近よく聞くようになったのでしょうか？

最近よく聞くのは、名前がついたから

実は、この現象自体は昔からあったものなのです。近年の気象レーダー技術の発展により特徴的な降水帯が見られるようになりました。その後研究が進み、「線状降水帯」という名前が付けられました。2021年6月からは、線状降水帯による「顕著な大雨に関する情報」が気象庁から発表されるようになり、「線状降水帯」という言葉が一気に社会に浸透しました。

① 地上付近に温かく湿った風が吹き、雲が発生



最初の雲ができる。これは普通の雨が降る過程と同じ

② 積乱雲は雨を降らせながら移動する 下降流と下層風が衝突し新たな雲が発生



最初の雲は移動するが、元の場所で新たな雲が発生

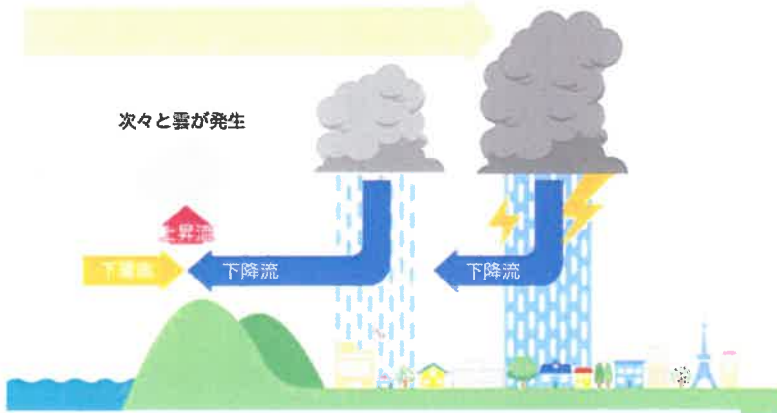
線状降水帯はなぜできるのか？

大雨をもたらす原因は、積乱雲です。この積乱雲が連続して発生し、上空の風の影響で帯のように連なると線状降水帯となります。

積乱雲が1つであれば、雲が風に流され、雨は一時的なものになりますが、積乱雲が帯のように連なった線状降水帯の場合、長時間にわたり大雨になります。

線状降水帯はその形成過程・構造によっていくつかの種類に分けられます。今回は、長時間の大雨をもたらす災害に直結する恐れが特に高い「バックビルディング型」について解説します。

③ ②を繰り返し、最初の場所で次々と雲が発生



それが繰り返されることで、次々と雲が発生し続ける

④ 次々と新しい雲が発生し、長時間の豪雨に



同じ場所で雲が発生し続けることで、同じ場所で雨が降り続ける